

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭59—113517

⑬ Int. Cl.³
F 16 C 23/08
33/48

識別記号

庁内整理番号
7127—3 J
8012—3 J

⑭ 公開 昭和59年(1984)7月31日

審査請求 未請求

(全 5 頁)

⑮ 複列自動調心ころ軸受

藤沢市大庭3910

⑯ 実 願 昭58—6094

⑰ 出 願 人 日本精工株式会社

⑱ 出 願 昭58(1983)1月21日

東京都千代田区丸の内2丁目3
番2号

⑲ 考 案 者 森永望

⑳ 実用新案登録請求の範囲

- (1) 外輪31は球面の外輪軌道32を有し、内輪33は球面の内輪軌道34を二列有し、前記外輪31と内輪33との間に保持器41を配設し、該保持器41は軸受内側の環状部42と軸受外側の環状部43とが柱44によつて連結されて一体となっており、前記保持器41のポケット45に球面ころ47を配設した複列自動調心ころ軸受において、前記保持器41は合成樹脂製であり、前記ポケット45を形成する柱の側面51は、軸受の軸心と球面ころの軸心52とを含む平面53に対して直角な平面であつて球面ころの軸心52を含んでいる平面54より軸受内側と軸受外側とに、球面ころの転動面55に則した曲率の円弧を軸方向および半径方向に有する凹曲面57、58をそれぞれ有することを特徴とする複列自動調心ころ軸受。
- (2) 柱の側面51が半径方向のみぞ71を有する実用新案登録請求の範囲第1項記載の複列自動調心ころ軸受。
- (3) 保持器の軸受外側の環状部の内周部75と球面ころ47との間のすきま76が保持器の軸受外側の環状部の外周部78と球面ころ47との間のすきま79より大きい実用新案登録請求の範囲第1項記載の複列自動調心ころ軸受。
- (4) 保持器の軸受外側の環状部の外周面92と外輪31に設けたシール面93とが密封部を構成する実用新案登録請求の範囲第1項記載の複列自動調心ころ軸受。
- (5) 柱44が柱の外周面61と柱の側面51との

間に凹状のガイド部87を有する実用新案登録請求の範囲第1項記載の複列自動調心ころ軸受。

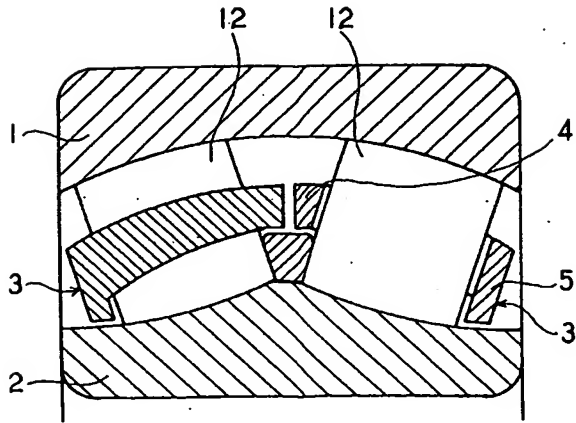
- (6) 保持器41と軌道輪31、33との間の半径方向すきまL、Mが柱の側面51と球面ころ47との間の半径方向すきまNより大きい実用新案登録請求の範囲第1項記載の複列自動調心ころ軸受。

図面の簡単な説明

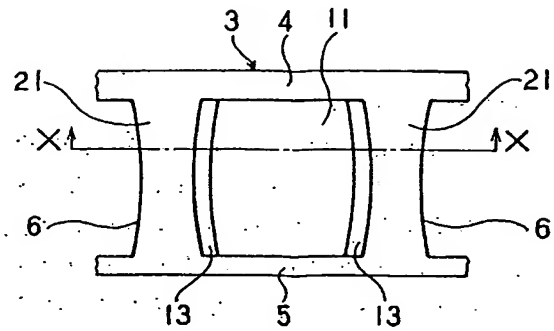
第1図は従来の複列自動調心ころ軸受の断面図、第2図は第1図に示す保持器の平面図、第3図は第2図のX-Xの断面拡大図、第4図はこの考案の一実施例を示す複列自動調心ころ軸受の断面図、第5図は第4図に示す保持器の平面図、第6図は第5図のY-Yの断面拡大図、第7図は第5図のZ-Zの断面拡大図、第8図は第4図に示す保持器の射出成形時にポケット内の金型を抜く時の説明図、第9図はこの考案で使用する他の保持器の射出成形時にポケット内の金型を抜く時の説明図、第10図ないし第15図はこの考案の他の実施例を示す複列自動調心ころ軸受の断面図、第16図は柱の側面と球面ころとの間の半径方向すきまの説明図である。

図中、31は外輪、32は外輪軌道、33は内輪、34は内輪軌道、41は保持器、42は軸受内側の環状部、43は軸受外側の環状部、44は柱、45はポケット、47は球面ころ、51は柱の側面、52は球面ころの軸心、53は軸受の軸心と球面ころの軸心とを含む平面、54は球面ころの軸心を含んでいる平面、55は球面ころの転動面、57、58は凹曲面である。

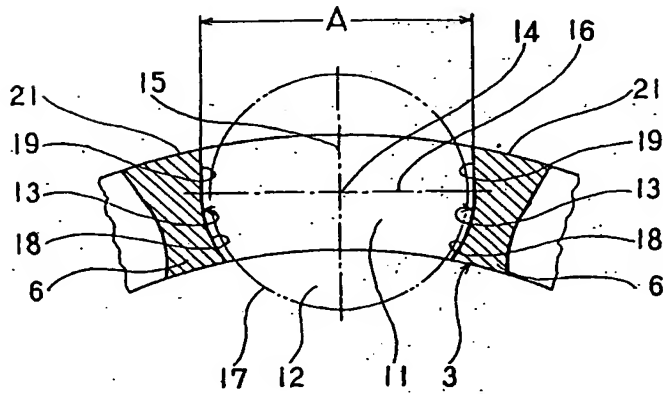
第1図



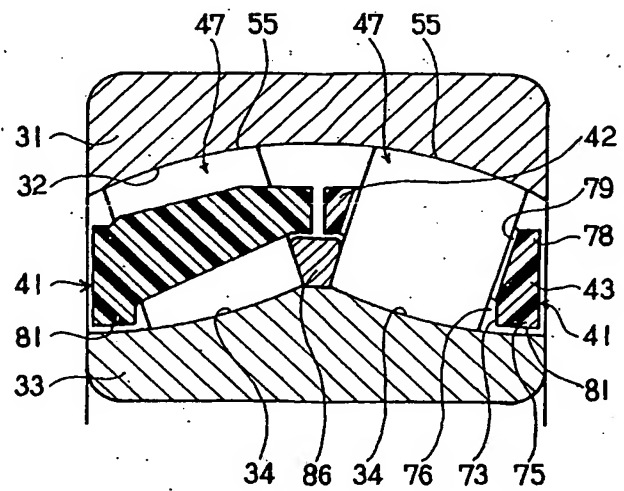
第2図



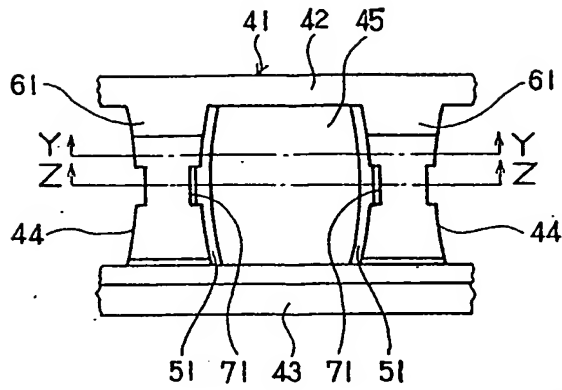
第3図



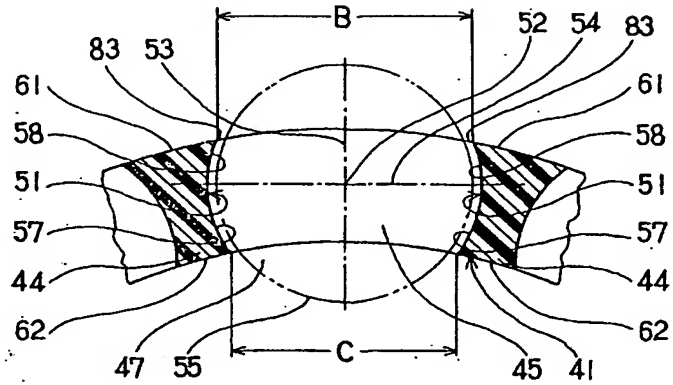
第4図



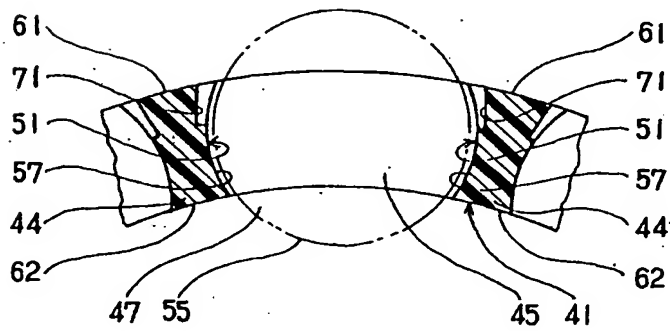
第5図



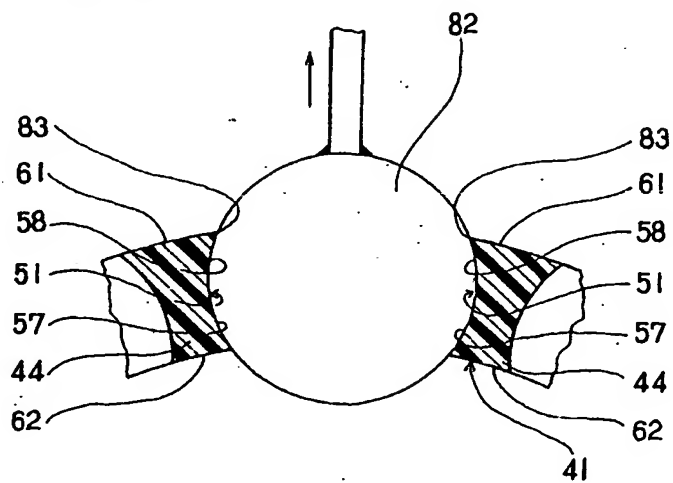
第6図



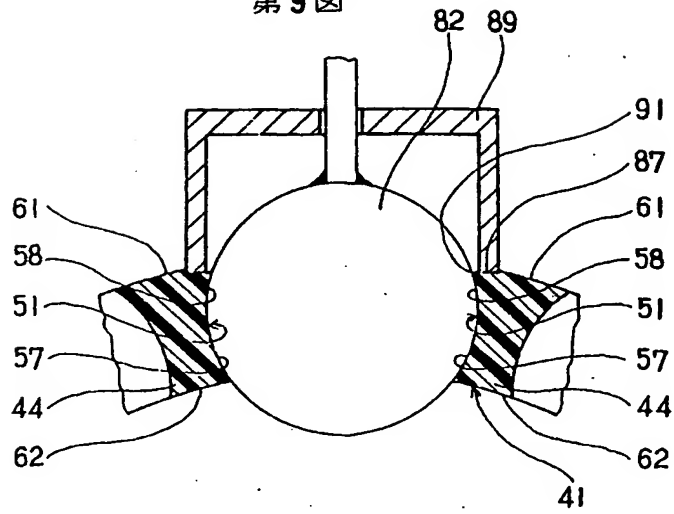
第7図



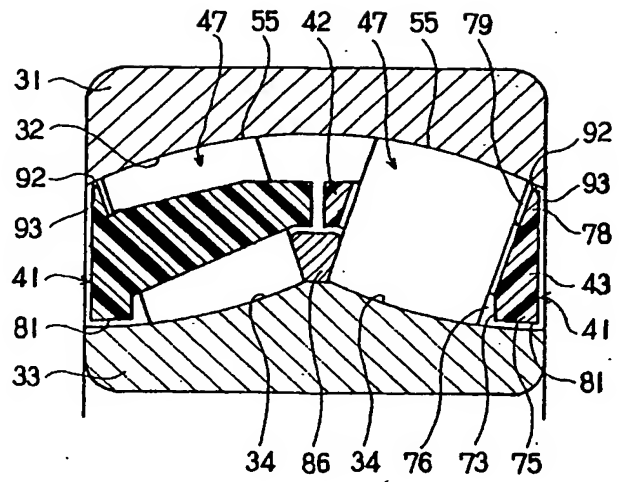
第8図



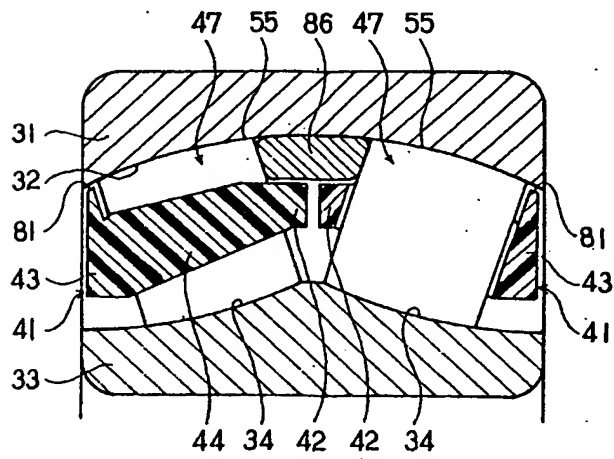
第 9 図



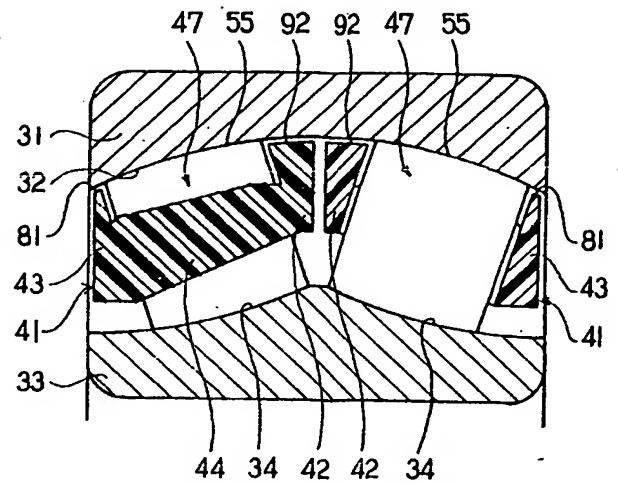
第 10 図



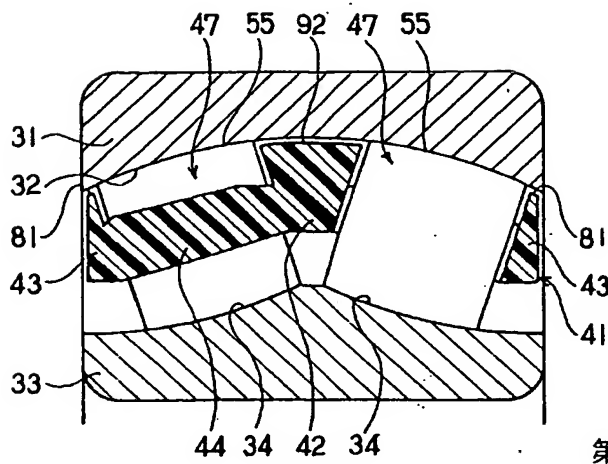
第 11 図



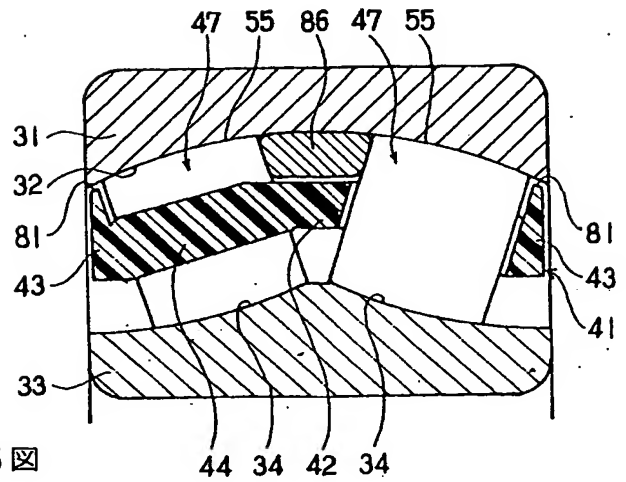
第 12 図



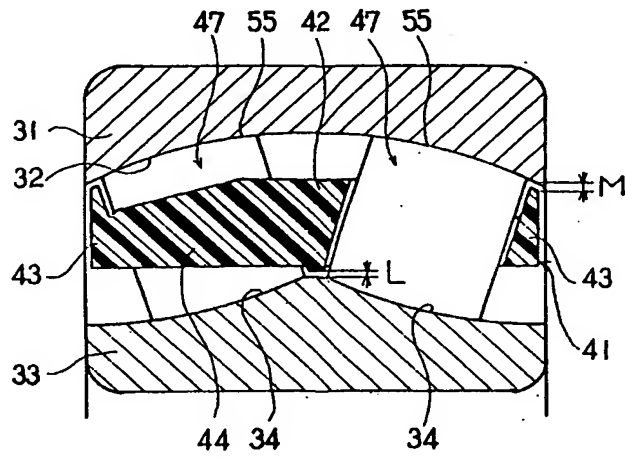
第13図



第14図



第15図



第16図

